

平成21年度県立高等学校入学者選抜の結果について

平成21年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の推薦入学面接が2月9日（月）、学力検査が3月5日（木）、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月5日（木）、学力検査が3月17日（火）に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

平成21年3月の県内中学校卒業見込者数（前年比186人の減）を考慮し、全日制課程の定員を12,955人（前年比150人の減、延べ3学級の削減）とした。

2 平成21年度入学者選抜について

(1) 推薦入学

推薦入学については、全日制課程の高校59校125科で実施され、実施しない高校は2校2科であった。推薦入学においては学力検査を行わず面接をもってこれに代えるものとしているが、43校97科では作文を課しており、15校23科では、小論文を課している。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から学力検査の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであるが、

今年度の実施校は3校3科であった。教科別にみると、国数英の3教科を実施したのが2校2科、5教科全て実施したのが1校1科であった。また、小山高校と黒磯南高校の各専門学科については、昨年度と同様に、特定の教科の得点を1.5倍する教科間の傾斜配点を実施した。

学力検査受検者に対する面接は平成元年度から導入しているが、今年度は28校89科で実施した。

海外帰国子女等の受検に関する特別措置については、推薦入学と同時に進行特別選抜検査で34名が合格した。

定時制課程において、満20歳以上の志願者について学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる制度では、11名が合格した。

以下、各教科ごとの学力検査問題（全日制）について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程10校から1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 学力検査 受検・合格状況の推移

	平成21年度				平成20年度				平成19年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	推薦入学	学力検査	フレックス特別	学力検査	推薦入学	学力検査	フレックス特別	学力検査	推薦入学	学力検査	フレックス特別	学力検査
募集定員	12,955		640		13,105		640		13,625		640	
受検人員	2,877	12,778	232	479	3,067	12,771	196	419	3,128	13,445	211	385
受検倍率	0.95	1.24	1.93	0.92	1.00	1.23	1.63	0.80	0.99	1.24	1.76	0.73
合格人員	2,616	10,287	119	438	2,678	10,317	119	391	2,788	10,767	116	358
合格倍率	1.10	1.24	1.95	1.09	1.15	1.24	1.65	1.07	1.12	1.25	1.82	1.08

※ 受検倍率＝受検人員÷定員、合格倍率＝受検人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語事項に関する能力、表現する能力、理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語事項についての知識とその理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方をとらえ、あるいは作品の描写や登場人物の心情などを読み取るなどして自分の考えをまとめて、表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材にして、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、テーマについての自分の考えを、理由を明確にして、適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

① は、言語事項に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語事項の単なる知識にとどまらず、言葉の意味や決まりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立てることを願って出題した。

1 の漢字の読みの問題は、平均正答率は 78.4 %、2 の漢字の書き取りの平均正答率は 74.1 %であった。漢字の読みでは、(1)紛れる、(2)励むなど正答率 9 割を超えるものもあったが、(4)滞るは、5 割程度であった。書き取りでは、(1)冷やすは、正答率 9 割を超えたが、(4)額、(5)招待が、6 割に満たなかった。日常生活の中で使用する語彙を広げるためにも、漢字学習の重要性を確認したい。

6 の行書で書かれた漢字の総画数を識別する問題では、86.1 %と高い正答率であった。3 の品詞を識別する問題は 30.4 %、7 の訓読文に対応させて漢字「不」を答える問題では、43.6 %の正答率であった。5 の、文の照応関係を踏まえて、「会話の内容を誤解のないように表現した文」を選択する問題については、64.2 %と、昨年度の同種の問題に比べて 8.6 ポイント上昇した。

② は、「発心集」を素材として出題した。聖人と盗人との話である。仮名遣い、主語を識別する問題、内容の把握などを問う例年と同様の問題に加えて、文の意味を選択する問題、「盗人が不思議だと思った」内容を記述する問題を設定した。2 の主語を識別する問題については正答率が 43.7 %、3 の「いとあやし」の内容を記述する問題については、完全正答率が 19.4 %と低かった。

主語が省略される古文の特徴を踏まえ、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の考えを把握する学習などを継続したい。また、言語文化を継承するという観点からも、古文固有の言葉に注目し、古文特有の話の面白さを味わうなど、多く

の古典に親しむ機会をつくり、現代に息づく古典の価値を理解したい。

③ は、野田研一「自然を感じるころ — ネイチャーライティング入門」を素材として出題した。環境問題を地球的規模でとらえ、自然科学の観点ばかりでなく、広い視野で環境問題をみていこうという筆者の考えが記述されている。1 の二つの接続詞の組み合わせを選択する問題は、正答率が 87.3 %であった。5 の段落相互の関係を説明する問題や、6 の本文の内容に合うものを選択する問題は、正答率が 6 割を超えたが、3、4 の記述式の設問は、前後の文をそのまま抜き出したような解答が目立ち、正答率が低かった。

説明的な文章は、主張と具体例を区別して読んだり、根拠を抜き出したりするなどして、筆者が何を言いたいのか、全体的な要旨を正確に読み取る力を養っていく必要がある。併せて、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、話し合ったりするなどして、他の言語活動との関連を深めたい。

④ は、瀬尾まいこ「戸村飯店 青春 100 連発」を素材として出題した。本文中に登場する主な人物は二人であるが、それぞれの人物像をとらえながら読み進めていく必要がある。

1 の文中の空欄に適切な語句を挿入する設問は 95.7 %、4 の「みんなの顔も上気していた」文脈上の意味を選択する設問は 87.9 %、2 の「俺の指先からこぼれるように、ピアノの音が響く」と感じている理由を選択する設問は 77.7 %の正答率であった。選択問題の正答率が高い中で、本文の表現上の特徴を選択する設問は 51.7 %であった。3 の「無心になって指揮をしているコウスケの状態を表現している一文」を本文中から抜き出す設問は、「一文」でない解答や、コウスケの心の叫びを抜き出している解答が多かった。また、5 の「俺も思わずしっかりと手を握り締めてしまった」理由を問う設問は、直前の文をそのまま抜き出している解答が目立った。

文学的な文章については、読みの交流を図るとともに、解釈の妥当性を検証しあうような学習も必要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとにして意見を述べたりといった学習活動によって、確かな読みにつなげていきたい。

⑤ の作文は、「地域社会とわたしたち」というテーマで、三人の会話を参考にし、理由を明確にした上で、自分自身が考えたことを適切に書く能力を評価するものである。会話の内容を参考にするという形式の出題は、三年目である。是か非か、あるいは A か B か、という二者択一ではなく、「地域社会」とのかかわりの中で、自分の考えを述べるということが前提となっている。普段の生活でも、様々な意見や情報がある中で、自分自身の考えをもつということに始まり、理由や根拠を意識しながら、自分の考えや意見を表現する経験を積んでおきたい。また、授業の中では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」との関連において、事実と意見の区別、根拠や理由の整理、効果的な表現などについて確認し、書く過程の学習の充実を図ることで、自ら考え、表現する力の向上を目指したい。

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	91.2 %	2	1	74.2 % (75.2)	4	1	95.7 %		
		(2)	96.4 %		2	43.7 %		2	77.7 %		
		(3)	84.7 %		3	19.4 % (31.7)		3	72.6 % (79.6)		
		(4)	49.6 %		4	66.1 %		4	87.9 %		
		(5)	70.3 %		5	80.3 %		5	4.9 % (36.6)		
	2	(1)	95.7 %	3	1	87.3 %		5	6	51.7 %	
		(2)	74.3 %		2	74.8 %	0.4 % (96.4)				
		(3)	84.3 %		3	14.0 % (49.5)					
		(4)	57.3 %		4	3.9 % (27.3)					
		(5)	58.7 %		5	61.6 %					
	3	30.4 %	6	62.3 %							
	4	57.2 %									
	5	64.2 %									
	6	86.1 %									
	7	43.6 %									

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 基礎的・基本的内容を3分野から取り上げて出題し、社会的事象に関する基礎的理解や思考力・判断力、表現力等のみようとした。
- 3 3分野の総合問題として「2」を出題し、社会的事象を諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力をみようとした。
- 4 各分野ごとに論述問題を出題し、社会的事象に対する見方や考え方と、それを整理し表現する力をみようとした。
- 5 地図・統計・図表・年表などを正しく読む力、それらをもとにして考察し表現する力をみようとした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的分野	歴史的分野	公民的分野	合計
選 択	7(14)	6(12)	4(8)	17(34)
記 述	6(12)	7(14)	6(12)	19(38)
論 述	3(12)	2(8)	2(8)	7(28)
組 み	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合 計	16(38)	15(34)	12(28)	43(100)

() 内の数字は配点

結果の概評

「1」は、広く地理、歴史、公民の各分野についての基礎的、基本的な知識及び理解度をみるものである。わが国の総人口に占める栃木県の人口の割合を選ぶ選択式の設問(2)、三大都市圏のうち名古屋を問う記述式の設問(1)の正答率がやや低かった。全体的に基礎的・基本的な事項の定着を図ることが望まれる。

「2」は、1993年という年が、冷夏によって稲の不作があったことを知って、わが国の食料生産について調べたという設定で、地理、歴史、公民の各分野にわたって理解度をみた。論述問題である設問5では、2つの情報(資料)を組み合わせて考察し、それを表現する力をみた。鶏卵の自給率が高いという統計資料の

情報と飼料全体の自給率が低いという文章に記述された情報との関連に着目できるかが問われた。正答率が低かったが、基礎的・基本的用語の理解だけでなく、情報を選択しそれらを関連付けて考察するなどの資料活用能力を身に付けることが求められる。

「3」は、わが国の交通、土地利用や産業の特色について、統計や地形図を読み取り考察する力をみる問題である。設問2は、正答率がやや低かったが、国土利用の割合を知識として問うのではなく、わが国の国土のおよそ4分の3が山地であるという情報をもとに、答えを類推していく力をみた。地形図を読み取る設問5では、部分正答を含めると正答率は高くなるが、完全正答率は低かった。地図記号に関する基礎的な知識だけでなく、どちらが低地、台地であるかを読み取る正確な力が求められる。

「4」は、世界地理に関する問題であるが、全体的に正答率が低かった。設問1や設問4では、地球上の大陸、大洋、赤道の大まかな位置関係について理解度をみた。日常的に世界地図に触れる機会を持ち、地理的な見方を身に付ける学習が必要である。また、設問5では、世界の自動車生産を素材として、表とグラフという異なる統計資料の中から、必要な情報を取り出し、経年変化の傾向を大づかみに捉えていく力をみた。

「5」は、4つの歴史上有名な絵画や建築物を素材として、江戸時代までの歴史的事象についての理解度をみた。設問1はやや正答率が低いだが、わが国の文化史上の人物について、それぞれの時代の文化的特色と関連づけて理解することが求められる。徳政令の目的と内容を論述させる設問3は、歴史的事象を因果関係などを含めて、正確に理解していないと書けない問題であった。また、設問5は、時代の流れを大づかみに把握しているかどうかについてその理解度をみた。

「6」は、幕末以降の歴史についての問題である。設問4が最も低い正答率であった。第一次世界大戦中のわが国の経済について、貿易と産業のそれぞれについて具体的に理解した上で、問われていることに対して適切に表現する力をみる問題であった。

「7」は、公民分野のうち、政治や司法、労働三権について問う問題である。設問3では、具体的な事例を素材とし、知識を実生活で活用できるかを試したが、正答率は高かった。団体交渉権を説明させる設問4の正答率は低く、適切な表現で説明する力が望まれる。

「8」は、経済、福祉、国際に関する問題である。設問2の介護保険制度について正答率が低かった。全体的に基礎的な事項であったが、設問5(2)の拒否権のしくみについては、正答率が低く、正確な理解と適切な表現力が求められた。

<平21>

社会学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率	
1	1	(1)	75.7 %	3	1	50.4 % (57.8)	6	1	55.2 % (57.9)
		(2)	57.0 %		2	42.6 %		2	56.4 %
		(3)	72.2 %		3	53.4 %		3	72.3 % (79.5)
		(4)	87.8 %		4	69.4 %		4	5.2 % (41.5)
	2	(1)	38.5 % (42.1)		5	19.3 % (72.7)		5	59.3 %
		(2)	54.8 % (57.5)	4	1	42.8 % (44.8)	7	1	49.2 % (51.8)
		(3)	54.8 % (61.2)		2	65.7 %		2	63.1 % (64.7)
		(4)	84.7% (86.0)		3	48.7 % (48.7)		3	86.1 %
2	1	66.9 % (73.5)	4		47.4 %	4		29.5 % (53.6)	
	2	83.1 %	5		42.3 % (88.7)	1		69.1 % (69.6)	
	3	69.8 % (69.9)	5	1	46.6 %	2	36.6 % (40.0)		
	4	52.7 % (55.1)		2	68.3 %	3	58.7 % (61.4)		
	5	44.3 % (69.4)		3	14.2 % (46.1)	4	59.7 %		
5	5	(1)		82.8 %					
		(2)		37.8 % (53.8)					

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即し、数学の基礎的な概念や原理・法則の理解力、数学的な表現や処理能力及び事象を数理的に考察する能力を総合的に評価できるよう、数と式、図形、数量関係の3領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式の問題を通して、数学全般にかかわる基本的な技能の習得状況の評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、数学的な思考力、表現力及び処理能力を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量問題や基本的性質に関する証明問題を通して、直観的な見方・考え方、論理的思考力、論証能力を評価できるようにした。
- 4 数量関係の領域では、関数や場合の数の基礎的な問題を通して、関数的な見方・考え方や確率の考え方が身につけているかを評価できるようにした。
- 5 数と式、図形、数量関係の3領域からなる融合問題を通して、事象の中にひそむ関係や規則性を数理的に考察し、数学的な表現や処理の仕方を活用して、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

①は中学校数学の各領域における基礎的・基本的な学習内容の理解力及び計算力をみる問題である。平均正答率は76%で、昨年度の83%と比べ平均正答率は下がった。小問の正答率は、問6、問13の正答率が低かった。問6は、数の除法における関係を式に表す問題であったが、商や余りがわかっているにもかかわらずそれらの関係を式に表すことができていなかった。また、問13の側面積を求める問題については、立体における側面積の理解が不十分であったことが考えられる。今後とも、各領域について一層基本的な知識・理解や処理能力を定着させることが望まれる。

②は数と式、数量、図形関係の領域における理解力及び処理能力をみる基本的な問題である。問1は作図の問題。円の接線をどのようにして引くかという問題であったが、正答率54%。問2は確率の問題。場合の数を正確に数える事が出来てい

たためか69%の正答率であった。問3は2次関数におけるx座標、y座標同士の差から方程式を立てて解く代表的な計算問題であった。それぞれの位置関係が読み取れなかったか、文字を用いることに抵抗があったか。正答率は5%であった。

③は思考過程や計算過程を論述させることにより、数学的な処理能力をみる問題である。各問の正答率は問1が62.4(76.7)%、問2は13.7(35.8)%であった()内は中間点まで含めた場合)。各問ともに、問題文を正確に把握できていないのではと思える答案が見られた。問1では、男女のx、yが入れ替わっていたり、割合の数が正しく表現できていなかったり、問2では、文字aを用いて説明すると書いてあるにもかかわらず、別の文字にしてしまうなど、設定と異なる解答を作ってしまったりと不注意な解答が目についた。文章の意図を正しく読みとることも数学的な活動の一つとして大切にしたい。

④は図形についての基本的な計量問題及び証明を通して、図形領域における論理的思考力をみる問題である。問1は平行線等の性質を利用した三角形の証明問題である。説明が不十分なまま証明を進めている答案が多かった。結論に至るまでの見通しを立て、論理的に表現する態度をなお一層育てたい。問2の計量問題の正答率は、(1)が61.3%、(2)が9.7%であった。(1)は、三平方の定理等が正しく適用できていた。(2)は、直径の円周角が90度であること等、図形を捉え切れていないと思われるものもあった。図形処理においても、複数の知識の活用の中から捉えられるようになって欲しい。

⑤は具体的な事象を通して、関数領域における理解力、思考力をみるとともに、数と式及び数量関係の領域における応用力をみる問題である。問1は39.5%、問2は23.7%の正答率であったが、問3は(1)、(2)ともに正答率は低かった。線分の動きを、動点の集まりの動きと考えられるとよかった。

⑥は立方体を規則に従って移動させていく具体的な操作を通して、数と式、図形、数量関係の3領域における理解力、思考力及び数学的な処理能力をみる問題である。正答率は、問1が52.5%、問2が15.8%であった。問3(1)、(2)では正答率が低かった。文章を正しく読み取り、規則・操作に従って処理するという数学的な活動を大切にしたい。また、規則性をみつけるといった活動を通して、数学的な見方や考え方に気付かせ、数学的に考える能力やそれを表現する力をさらに身に付けて欲しい。

<平21>

数学学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率	
1	1	98.5 %	2	1	53.6 % (62.4)	6	1	52.5 %	
	2	93.2 %		2	69.4 %		2	15.8 %	
	3	91.5 %		3	4.9 %		3	(1)	0.2 % (0.7)
	4	91.7 %	3	1	62.4 % (76.7)	(2)		0.2 % (0.6)	
	5	91.5 %		2	13.7 % (35.8)				
	6	33.8 %	4	1	16.6 % (63.4)				
	7	86.0 %		2	(1)	61.3 %			
	8	88.6 %			(2)	9.7 %			
	9	67.2 %	5	1	39.5 %				
	10	73.9 %		2	23.7 % (42.6)				
	11	53.7 %		3	(1)	0.7 % (2.9)			
	12	85.0 %			(2)	0.3 %			
	13	38.6 %							
	14	70.1 %							

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、第1分野（物理的領域、化学的領域）、第2分野（生物的領域、地学的領域）の2分野（4領域）の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活との関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識・理解及び関心をみるようにした。
- 3 基礎的な観察、実験についての知識・技能をみるようにした。
- 4 観察、実験を通して、自然の事象を科学的に調べ、実証的、論理的に考察する力をみるようにした。
- 5 自然の事象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

結果の概要

- 1 小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の平均の正答率が45.7%、記述問題で58.4%であった。1の食酢の中和、2の実験の条件設定に関する選択問題、7のバイオマスを答える記述問題で正答率が50%を下回った。2では、メスシリンダーを用いることの意味を踏まえていないための誤答が多く見られた。
- 2 火成岩や堆積岩の特徴と分類方法についての総合的な知識や岩石のでき方について科学的に考察する力をみる問題である。Aグループには2種類の火成岩、Bグループには堆積岩のうち、れき岩と砂岩が含まれる。肉眼やルーペを用いた観察の際には、それぞれの岩石に含まれる粒の特徴について意識しながら行うことが大切である。
- 3 動物が刺激を受け取り、それに応じた反応をするしくみについて総合的に理解する力や論理的に考察する力をみる問題である。1の感覚細胞がある部分を選択する設問ではアの選択率が39.1%で、正答であるウの選択率24.5%よりも高かった。2の反射の例をすべて選択する設問については比較的良好だった。動物の反射とそれ以外の反応について、信号の伝わる経路の違いと、そのことが動物にとってどのような意味があるのかを総合的に理解しておくことが良い。
- 4 パルミチン酸を加熱、冷却する実験を通して、状態変化について論理的に考察する力をみる問題である。1の液体のパーミチン酸が観察できる時間帯をグラフを参考に選択する設問では、イ、ウの選択率が7割近いにもかかわらず、エ、オの選択率が3～4割程度であり、正答率も12%と低くなった。温度上昇に伴う状態の変化をイメージとして理解しておくことが大切である。
- 5 レンズや鏡を用いた実験を通して、レンズの性質や光の進み方についての基本的な知識や科学的に考察する力をみる問題である。大問ごとの平均正答率としては最も低く、34%であった。3ではアまたはイ（像の下または上半分が消える）の選択率が高く、合わせて57.6%であった。4のろうそくの炎が鏡に映って見える範囲を図示する設問は、7.7%と全設問中で最も低い正答率であった。鏡の左端と右端それぞれで反射してから点Pに入射する光の経路を図中に書き込むことができるかどうかが鍵となる。
- 6 銅とマグネシウムの燃焼に関する実験を通して、基本的な知識や実験器具の使い方、反応の量的関係を論理的に考察する力をみる問題である。2のガスバーナーの使い方や、3の銅が酸化銅に変化するときの化学反応式については比較的良好であった。1でマグネシウムに塩酸を加えた時に発生する気体の化学式を記述する設問について、正答率の31.7%は予想に反して低いものであった。代表的な気体の化学式については正確に覚えておきたい。
- 7 植物の生殖を題材に、生殖のしかたの特徴や遺伝について、総合的に理解する力をみる問題である。2の体細胞や卵細胞に含まれる染色体を図示する設問の正答率が低くなっている。減数分裂によって形質を伝える染色体が半分ずつ生殖細胞に分配され、受精によって両親の形質を受け継ぐとともに、染色体数が元に戻ることを図で理解できるようにしておきたい。1、3については比較的良好であった。
- 8 太陽の黒点の観察結果や天体に関するデータを活用して論理的に考察する力やデータを分析する力をみる問題である。大問ごとの平均正答率としては最も高く、60.5%であった。設問ごとの正答率も1、3で80%を越えており、良好であった。2の黒点の実際の直径が地球の赤道直径の何倍かを求める設問については、11.6%と低い正答率であった。
- 9 抵抗器に電流を流す実験を通して、電流回路に関する基本的な知識や論理的に考察する力をみる問題である。大問ごとの平均正答率は40%を下回った。2はオームの法則に関する基本的な設問であり、正答率も良好であった。1の回路を完成させる設問では、電流計や電圧計を回路に対してどのように接続するのか、+と-の極性のある器具をどのように接続するのか、といったことが身に付いていないと思われる誤答が多く見られ、正答率も3割程度であった。3の設問は、全設問中で最も無答率が高く、24.5%となった。電流回路における電流の流れ方や電圧の加わり方について、整理して理解しておくことが望まれる。

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	
1	1	47.4 %	3	4	54.5 % (73.2)	7	3	生殖のしかた	66.7 % (69.0)
	2	30.1 %		4	1			12.0 % (24.6)	特徴
	3	54.6 %	2		a	42.9 % (45.8)	8	1	84.3 % (86.0)
	4	50.6 %			b	72.5 %		2	11.6 % (13.1)
	5	72.0 % (72.5)			c	59.7 %		3	88.7 %
	6	76.6 % (86.8)	3		36.2 %	4		57.3 % (75.0)	
	7	9.9 % (10.1)	5		1	44.9 %	9	1	29.8 % (39.8)
	8	74.9 % (80.1)		2	52.4 %	2		69.3 %	
2	1	45.2 %		3	31.3 %	3		3	12.7 % (13.0)
	2	名称	56.0 % (57.0)	4	7.2 % (7.7)		6	1	31.7 % (34.4)
		理由	51.4 % (72.1)	2	71.6 %			2	64.7 % (73.5)
3	53.7 % (55.0)	6	3	64.7 % (73.5)	7	1	74.4 % (76.9)		
3	1		24.5 %	4		18.6 % (18.7)	2	27.6 % (83.4)	
	2	68.5 % (81.9)	7	1	74.4 % (76.9)	7	2	27.6 % (83.4)	
	3	B		35.0 % (35.4)	2		27.6 % (83.4)		
C		45.7 % (45.9)							

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの4領域にわたって出題するようにつとめた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、話されることの内容を聞き取る基礎的な力を主としてみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語でコミュニケーションを図る力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

①は、身近な事柄を素材にして、音声によるコミュニケーション活動を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体平均正答率は、69.7%であった。1は相手の発話に対して適切に対応する力をみるものである。4問の平均正答率は64.7%であった。(3)の正答率が他と比べて低かった。2は英語の対話を聞いて、状況を把握し内容を理解する力をみる問題であり、各小問ごとに設問2つに答える形式である。正答率の平均は81.5%であり、各小問の平均正答率は(1)が75.0%、(2)が84.6%、(3)が85.0%であった。3は聞き取りの内容を相互に関連づけて理解する力をみる問題であり、5問の平均正答率は59.5%であった。話された英語を聞いて、具体的な内容や必要な情報を聞き取る力の育成が望まれる。今後も実践的コミュニケーション能力を育成するという観点から、聞く力を高めていくことは大切である。

②は、基礎的・基本的な事項についての理解度をみる問題である。助動詞、動詞、前置詞、関係代名詞等や基礎的な応答などを素材にしている。9問の平均正答率は57.9%であり、(3)の20.7%、(5)の29.1%を除き、基礎的・基本的な事項についての定着がうかがえた。今後とも、英語力の支えとなる基礎的な文法事項

については、確実な定着を心がけて欲しい。

③は、対話の流れを把握しながら要点を捉える力をみる問題で、異文化理解をテーマに出題している。今年度は中国での贈り物の習慣を題材にした。3問の平均正答率は25.9%であった。1の指定された文字で始まる英語を書く問題は、正答率22.7%であった。2、3の文脈から概要を捉えて解答する問題は、それぞれ正答率46.2%、12.0%であった。

④は、書くことによって表現する力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。1はホームページでの学校祭の案内を英語で表現する問題である。小問2問の完全正答率の平均は22.2%であり、中間点を含めると43.5%であった。2は手紙の内容を把握しつつ、文章にない情報を写真から読み取って、適切な英語を書く問題である。小問2問の完全正答率の平均は13.5%であり、中間点を含めると27.1%であった。具体的な場面や状況を把握し、適切な表現を自ら考え書くことが求められる。3は、与えられたテーマについて表現する力をみる問題である。今年度のテーマは将来つきたい仕事とした。完全正答率は6.7%であったが、中間点を含めると73.3%であった。今後も、書くことについては、自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝える力を育成することともに、言語材料についての理解の定着を確実に図ることによって英文の構成力、表現力を身につけることが重要である。

⑤は、物語文による読解問題であり、文脈に沿って内容を理解する力、概要や要点を捉える力をみるものである。今年度は、ある出来事を通して、他人に対する思いやりについて考えるようになった生徒の心の成長を描いた話を題材にした。4問の平均正答率は40.4%であった。2の文中の[]に、適切な英語に並べ替える問題は、話の前後の流れを捉え、その状況に合致するように、英語で適切に表現する力とともに、基本的な構文を用いて表現できる力を高めていくことが大切である。

⑥は、説明文による読解問題である。今年度は魚の鼻とヒトの涙点をテーマにした。4問の平均正答率は21.1%で、中間点を含めると34.5%であった。2の完全正答率は57.3%。概要をまとめたり、内容を適切に言い換える力を身に付けることが大切である。

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問	題	正答率	問	題	正答率	
1	1	(1)	54.7 %	2	1	61.8 %	4	1	(1)	24.6 % (57.2)
		(2)	78.6 %		2	59.4 %			(2)	19.8 % (29.7)
		(3)	43.9 %		3	20.7 %		2	(1)	18.5 % (31.8)
		(4)	81.5 %		4	82.0 %			(2)	8.5 % (22.4)
	2	(1)	①		91.3 %	5	29.1 %	3	3	6.7 % (73.3)
			②		58.7 %	6	78.9 %		1	29.6 % (41.7)
		(2)	①		76.6 %	7	61.9 %		2	31.7 % (34.9)
			②		92.5 %	8	56.2 %	5	3	37.2 % (46.2)
		(3)	①		85.3 %	9	70.7 %		4	51.7 %
			②		84.7 %	3	1	(1)	40.0 % (40.1)	1
	(1)	48.8 % (53.4)	(2)	5.4 % (7.5)	2			57.3 %		
	(2)	53.5 % (62.2)	2	46.2 %	6		3	13.2 % (14.7)		
	(3)	88.0 % (95.2)	3	12.0 % (20.8)		4	5.2 % (20.0)			
	(4)	91.8 % (91.9)								
	3	(5)	15.6 % (29.0)							

※ () 内は部分正答も含めた割合